

令和6年度第1回 部活動の地域移行のあり方検討委員会 議事要旨

令和6年7月3日（火）15:00

神戸市産業振興センター802・803 号室

1 事務局報告

（1）神戸市の中学校部活動地域移行の考え方について

- ・令和8年9月より、中学校部活動を平日、休日ともに地域クラブ活動（KOBE◆KATSU）に移行する
- ・今後の流れについて

2 各委員による意見等

○地域移行の考え方について

（委員）休日のみならず平日も移行するに至った背景について

→（事務局）アンケートから、休日と平日で指導者や環境が変わることを不安に思う声があった。

（委員）活動時間、移動時間などは考慮されているか。

→（事務局）学校は17時完全下校としている。平日も地域の活動になれば、現在の体育館の開放事業のように夜間の活動もできると考えている。

（委員）吹奏楽の運営主体について。吹奏楽連盟が運営主体にはなれない実情がある。

→（事務局）吹奏楽連盟が難しい場合は、複数名の有志に活動していただくことを想定している。

（委員）現状、吹奏楽の受け入れ先がなく、大きな課題が4つある。

1. 中学生を受け入れる団体がない。大人のみで活動している団体が多い。
2. 場所の問題。音楽室などを使えるようにできないか。遅い時間帯は地域の理解が必要。
3. 楽器の問題。小学校、中学校には多くの楽器がある。どこかで一括して保管運用してはどうか。
4. 指導者の確保。協力してくれる教員も一定数いる。楽器バンク、人材バンクを設立できれば。

（委員）KOBE◆KATSUは、学校施設を使用する活動と理解しているが合っているか。

→（事務局）基本的には学校施設の利用を想定。鍵の管理や教室の利用は課題として認識している。

（委員）受け入れ団体、地域、こども、保護者、教員、費用負担など、多くの課題が関係している。

→（事務局）中学校施設を利用することで、活動場所の確保、費用負担を抑える効果があると考えている。1月中に多くの中学校で行われる入学説明会で説明できるよう、進めていきたい。

（委員）部活動がなくなるという話のみが広がるのではなく、やりたい活動ができるという発想になってほしいと思っている。

→（事務局）昨年度から事務局と校長会で協議し、学校でできることから取り組んでいるところ。

（委員）6月22日の総合型地域スポーツクラブの全市会では、「部活動の地域移行」をテーマに設定して協議した。決まっていることが少なく不明点が多いため、不安が勝っている状態。

（委員）今までの学校から、これからは地域という単位に変わる。神戸市ほどの大きな規模で、平日、

休日ともに地域移行を決めた自治体は初めてだと思う。運営主体に関する課題としては、地域で要件を精査していくことになる。登録後、審査をする管轄も必要になる。指導者、兼職兼業、平日の動き、労働管理などがまだまだ詰め切れていない状態。

(委員) 事務局や学校が関わりながら施設運用をスタートしていく必要があるのではないかな。

(委員) KOBE◆KATSU の運営主体について。神戸市全体で把握する組織が、今後は必要になっていく。市全体を1つの組織だけで担当するのは難しい。

(委員) アンケートの内容についてはどのように考えているのか。

→ (事務局) 対象は小学4～6年生とその保護者。児童には、やりたいこと、勉強以外に何がしたい、どのような目的で活動したいかなどを聞く簡単な質問を考えている。

(委員) アンケートの結果は、中学校にフィードバックして中学校でできる対応をお願いしたい。

→ (事務局) アンケートでは、小学校名を確認する予定のため、各区でまとめることは可能。

(委員) 費用面に関して不安がある。保護者に費用に関する質問もしてほしい。

(委員) 保護者へのアンケートにはどのような項目があるのか

→ (事務局) 13問程度を予定している。現在の、習い事、費用、塾以外の費用、移動手段の把握。中学生になったときの放課後の過ごし方、KOBE◆KATSUに期待すること、KOBE◆KATSUに関して心配すること、活動頻度、活動時間帯なども聞く。また、KOBE◆KATSUに指導者として関わってもらえるかどうか聞く予定。

→ (委員) KOBE◆KATSUへの関り方に多様性を持たせてほしい。スポーツクラブ21の関係者や、施設開放委員会(小学校区)など。

→ (委員) 移行した場合、どれくらいの費用を負担できるかも、アンケート項目に入れてほしい。

(委員) 施設開放委員会について

中学校で開放委員会があるのが3校しかない。中学校でも施設開放委員会の拡大を進めてほしい。

→ (委員) 現在も、中学校施設の夜間開放などは利用がある。民間委託しておりスマートロックで対応している。新たに開放委員会が必要かどうかの検討が必要になる。

→ (委員) 対象者を制限し、KOBE◆KATSUに申請している団体に優先権を作してほしい。

→ (委員) 今後は、神戸市として施設利用条件を規定していく必要があると思う。

3 委員長による総括

部活動というイメージを取り払うことが、一番困難な作業。関係者は市民全員であり、多くの場面で周知する必要がある。周りで子供の活動を見守るだけの大人がいて、遊びの延長としての活動も認めていく方向が望ましい。多様な活動を認めていくためにも、今までの感覚を変えていくことが大切だ。

次回までに、入学説明会で説明できるよう、ある程度内容を練り上げておくようお願いする。